

ふたつのアルプスが
見えるまち

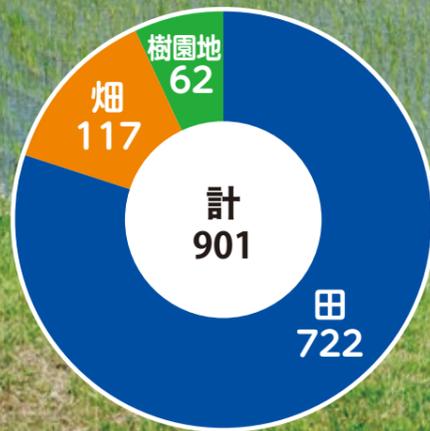
飯島町

ふるさととの資産

～与田切川周辺の農業水利施設～



飯島町の農地の内訳
(ha)



(農林業センサス 2020 から作成)

飯島町の農地の約 80%は田んぼです。
飯島町の中央部を流れる与田切川周辺には豊かな水田地帯が広がっています。



飯島町イメージキャラクター
「いいちゃん」



- ・ 飯島町について 1
- ・ 水路開削の歴史 2
- ・ 飯島町の主要な用水路位置 3
- ・ 周辺施設 4
- ・ 与田切川の左岸側の水路 5
- ・ 与田切川の右岸側の水路 6

長野県上伊那地域振興局農地整備課



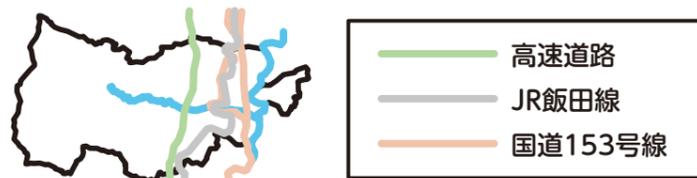
陣馬形から見た飯島町

飯島町の位置

飯島町は西に中央アルプス、東に南アルプスがそびえる「ふたつのアルプスが見えるまち」です。

中央部には与田切川、東部には天竜川、北部には中田切川といったように、飯島町には多くの川が流れています。

また、高速道路、JR飯田線、そして国道153号線が南北に通っています。



飯島町の農業

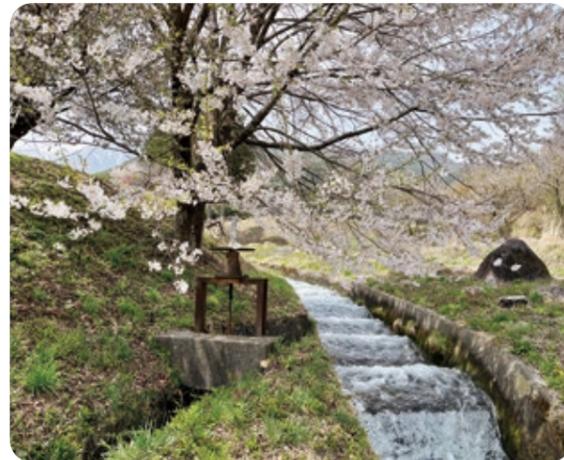
飯島町の産業は農業が中心です。

中でも米づくりが中心となっています。その他にはリンゴやナシなどの果樹、花やキノコなどを栽培しています。

また、飯島町には農業をするために必要な水を流すための水路（農業用水路）がたくさんあります。

この農業用の水はどこから流れてくるのでしょうか？

また、農業用水路はいつ、どんな思いでつくられたのでしょうか？



農業用水路



稲が実った田んぼ

江戸時代から飯島町では中央アルプスの豊富な水を利用して、米が作られていました。

明治時代になると、荒れ果てた原野が広がる土地を前に、村の長たちは「この場所を活用して米をつくるのができれば、皆の暮らしは豊かになるだろう」と考え、田んぼを新しくつくる計画をしました。

しかし、田んぼで米を育てるにはたくさんの水が必要なため、今ある水だけでは新しく田んぼをつくることはできませんでした。

そこで、さらに多くの米を育てるために、与田切川の水を利用するための新しい水路をつくることにしました。

いつごろ水路が作られたのかを与田切川の左岸側の地域（飯島、田切）と右岸側の地域（七久保、本郷）に分けて紹介します。

※1 開削：水路をつくること

※2 川の上流から下流に向かって、右側が右岸、左側が左岸



与田切川の左岸側の地域

飯島地区では江戸時代以降「旧井」の水を利用して生活していました。

さらに田んぼをつくるため、1906年（明治39年）に新しく「新井用水」が作られました。

新井用水には「隧道」があります（右写真）。当時は現在のように機械がなかったため、人力で掘られています。

また、1952年（昭和27年）に中田切川の水を利用するため隧道531mを含む「猿ヶ城用水」が作られました。

※3 隧道：トンネル



新井用水に残る隧道

与田切川の右岸側の地域

江戸時代には横沢川の水を利用する「横沢用水」を使って米づくりをしていました。

1873年（明治6年）に七久保村と片桐村が新たに約130haの田んぼで米をつくりたいと考えました。

しかし、横沢用水だけでは新しく米づくりを行うための水が足りませんでした。

そこで、1886年（明治19年）に「七久保用水（与田切用水）」が開削されました。

七久保用水では上流の地区と下流の地区の間で水争いが絶えなかったため、時間制分水というルールをつくって水が利用されていました。

昔の人々の知恵と努力のおかげで今でも水が流れ、お米が栽培されています。



※4 ha(ヘクタール):

面積の単位で1ha=10,000㎡(100m×100m)

※5 時間制分水:

地域ごとに時間を区切って、順番に水を使うこと
分水の割合は上流の七久保が6で、下流の横前・小平・竹ノ上(中川村)が4

飯島町の主要な用水路位置

周辺施設

農業に係る水路やため池などを紹介します。

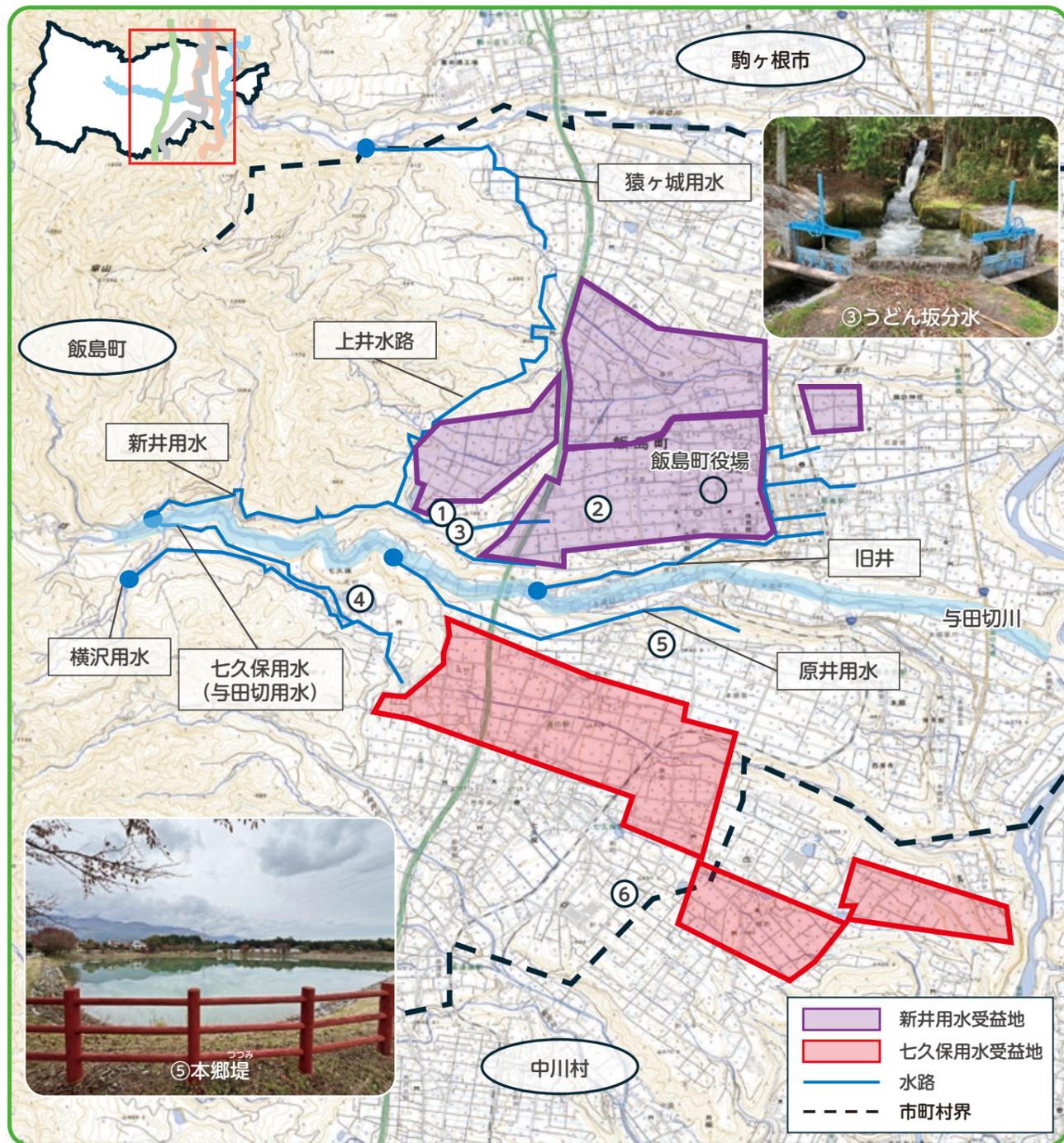
下の図では新井用水と七久保用水の水で農業している地域(受益地)を紫色と赤色で着色しています。

与田切川の左岸側の地域

- 水路：新井用水、上井水路、旧井、猿ヶ城用水、③うどん坂分水
- ため池：①滝ヶ原堤
- その他：②大正新田開墾記念碑

与田切川の右岸側の地域

- 水路：七久保用水(与田切用水)、横沢用水、原井用水
- ため池：④千人塚城ヶ池、⑤本郷堤、⑥針ヶ平堤
- その他：ミヤマシジミ



飯島町の主な農業用施設を紹介します。飯島町には水路の他にため池も多くあります。

ため池には水が多いときに水を溜めて、水が少ないときに水路へ流し水の量を調整する役割があります。その他には冷たい水を温める「温水ため池」としての役割があります。

また、水路に流れている水は農業以外に自然環境の保全にも役立っていて、めずらしい植物や昆虫が生息できる環境をつくっています。

①滝ヶ原堤

平成7年頃に人工的につくられた温水ため池です。春にはため池のまわりに桜がたくさん咲きます。約9,000㎡(小学校のプール 約17個分)の水を溜めています。



②大正新田開墾記念碑

大正時代に森と原野だった土地を開田したことから、昔は「大正新田」と呼ばれていました。大正新田の開田を記念して石碑が建てられています。



旧井

江戸時代に伊那街道(国道153号線沿い)の周辺には「飯島宿」と呼ばれる宿場町がありました。飯島宿では生活用水として与田切川の水を利用していました。

この水は飯島小学校の東をとおり、飯島地区の街部へ流れています。また、飯島宿の東側の地域の田んぼで農業用水としても利用されていました。明治時代に新井用水がつけられたため、昔からあったこの水路は「旧井」と呼ばれています。



ミヤマシジミ

ミヤマシジミはチョウの一種で(右写真)、絶滅危惧種に指定されています。全国的に生息地や生息数が減るなか、飯島町や中川村では農地の畔や土手に広く生息しています。

ミヤマシジミが暮らす畔や土手にはめずらしい植物や昆虫も生息していて、生物多様性を表すチョウです。写真は針ヶ平堤付近で撮影されました。



オス 青色



メス こげ茶色

ミヤマシジミの特徴

オスは青色、メスはこげ茶色の羽をもっています。成虫は羽を閉じると1円玉ほどの大きさです。幼虫は「コマツナギ」という植物のみを食べます。



与田切川の左岸側の水路

水路は米づくりに欠かせない水を運ぶ大事な農業用施設です。このページでは「新井用水」、6ページでは「七久保用水」を中心に紹介します。

その他にも飯島町内には水路やため池などの農業に関する施設がたくさんあります。

ぜひ町内を歩きながら探してみてください。

新井用水取水口

新井用水は与田切川にある砂防堰堤から水を取り入れています。

川の反対側では七久保用水も水を取り入れています。

※6 砂防堰堤：土砂が下流に流れるのを防ぐ施設



新井用水

延長が約 2.4km の農業用水路です。

下流でいくつもの水路に分かれて、飯島地区の農地 200ha に水を届けています。

水しづきをあげながら急な斜面を流れているところもあります。



高速道路を横断する水路

水路の中には高速道路の上を横断しているところもあります。

昭和 40 年代に高速道路がつけられたときに、それまでと同じように下流まで水を流すことができるように、高速道路の上を横断する水路がつけられました。

飯島町には高速道路の上を横断する道路橋や水路橋がたくさんあります。



与田切川の右岸側の水路

七久保用水（与田切用水）

延長が約2.6kmの農業用水路です。

下流でいくつもの水路に分かれて、七久保地区・片桐地区(中川村)の農地 200haに水を届けています。

七久保用水の水は千人塚城ヶ池にも流れ込んでいます。



千人塚城ヶ池

千人塚城ヶ池は農業用の「ため池」で、水路の水の量を調節する役割と、中央アルプスの冷たい水を温める温水ため池としての役割があります。

貯水量は112,000m³ (小学校のプール 約207個分) で、面積は30,000m²ほど (サッカー場 約4つ分) です。



JR 飯田線を横断する水路

水路の中にはJR飯田線の上を横断しているところもあります。

大正10年頃に線路がつけられたときに、それまでと同じように下流まで水を流すことができるように、線路の上を横断する水路がつけられました。



上伊那地域の農業資産情報

その他にも、ホームページやインスタグラムで上伊那地域の農業資産や当課の取り組みを紹介しています。ぜひ見てみてください！



ふるさとの資産

～与田切川周辺の農業水利施設～
第1版第1刷 2026年2月発行
原案・企画 長野県上伊那地域振興局農地整備課
製作・印刷 株式会社 美臈堂